

30 年度 主な事業の紹介

5つの重点事業の決算について、新規事業や特徴的な事業を中心に紹介します。



1. 活力あるまちづくり

●海外輸出版路開拓事業（決算額 646万円）

安曇野地域の3つの酒蔵による日本酒を「あづみの酒」として共通ブランド化し、オーストラリアへのプロモーション活動を行いました。また、香港、シンガポールへの安曇野特産品の輸出を目指し、現地のインターネットメディアの取材を受け、SNSで発信しました。いずれも各国の企業との商談を行い、販路開拓の前進に協議へとつなげることができました。



2. 健康長寿のまちづくり

●アクティブシニアがんばろう事業（決算額 892万円）

アクティブシニアがんばろう事業の一環として、健康増進のために健康体操・ヨガ・合唱などを行う自主団体に補助金を交付しました。当初の見込みを上回る数の申請をいただき、高齢者の生きがいづくり・介護予防の拡大につなげることができました。交付団体数 72 団体、対象者人数 1,504 人



3. 豊かな人を育むまちづくり

●三郷文化公園体育館大規模改修（決算額 3億 9,618万円）

平成4年に完成した三郷文化公園体育館は、26年が経過し老朽化が進んでいたため、耐震補強工事と併せて大規模改修工事を行いました。これにより、安全で快適な環境と地域防災拠点としての機能強化が図られました。



4. 安全・安心なまちづくり

●乳幼児の紙おむつ処理手数料減免事業（決算額 142万円）

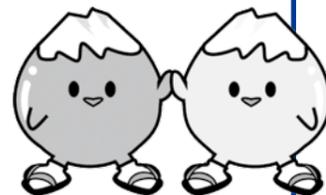
2歳未満の乳幼児を養育している保護者への支援として、紙おむつを捨てるための可燃ごみ市指定袋（容量 30ℓ）を交付しました。乳幼児の年齢に応じて、1人あたり1歳未満は 100 枚、1歳以上2歳未満は 50 枚を交付しました。申請者数 1,691 人、申請率 87.48%、交付枚数 12 万 7,950 枚（減免額 383 万 8,500 円）



5. 協働によるまちづくりと行財政基盤の強化

●区等地域力向上事業（決算額 253万円）

「地域コミュニティの形成と〔絆〕づくりに関すること」を業務とする地域おこし協力隊員を平成30年6月から採用し、区未加入者や転入者（移住者）の相談に応じたり、区加入の案内を行いました。また、区紹介カードやマスコットキャラクター制作などを通じて区の情報発信や、各区に出向いて課題解決や地域力向上のために寄り添った支援を行いました。



市の財政を家計に置き換えてみました



金額が大きい一般会計決算額を身近に感じてもらうため、年収 500 万円の家庭に置き換えてみました。

収入		支出	
項目	決算額	項目	決算額
給料や諸手当 (市税・地方交付税など)	313 万円	食費 (人件費)	63 万円
パート収入 (使用料および手数料など)	40 万円	医療費 (扶助費)	69 万円
親からの援助 (国県支出金)	73 万円	生活必需品や光熱水費 (物件費・補助費)	153 万円
ローンの借り入れ (市債)	55 万円	車等の修繕費 (維持補修費)	2 万円
貯金の取り崩し (繰入金)	11 万円	子どもへの仕送り (繰出金)	41 万円
昨年からの繰越金 (繰越金)	9 万円	ローンの返済 (公債費)	65 万円
合計	500 万円	家の増改築費 (普通建設事業費・災害復旧費)	61 万円
		友人への貸付金 (出資金等)	16 万円
		貯金 (積立金)	20 万円
		合計	490 万円

差し引き残高 10 万円

収入(500万円)から支出(490万円)を差し引いた残高は、翌年度に繰り越して使用します。



市の借金について

市債の平成30年度末現在高(企業会計含む)は、783億900万円ですが、これに対する普通交付税算入見込額(企業会計含む)は、536億5,700万円となることから、市の実質的負担は246億5,200万円となります。市の借金を一世帯・一人あたりに換算(平成31年4月1日現在の世帯数および人口から算定)すると…

- 一世帯あたり 61 万 9,164 円
 - 一人あたり 25 万 2,631 円
- となります。

歳出内訳 (性質別)

